



羅針盤



梅林 芳弘
Yoshihiro Umebayashi

東京医科大学八王子医療センター皮膚科教授 診療科長

モーラの神よ！

本号は、皮膚科の検査に関する特集を、という編集部
の求めに応じ企画したものです。皮膚科の検査といえば、
KOH 直接鏡検、ダーモスコピー、皮膚生検、パッチテ
ストが代表的なものとしてすぐに思い浮かびます。しか
し、これらについてはすでに優れた成書や雑誌特集号が
数多く存在しています。

人間には網羅したいという欲望が抜きがたくありま
す。著述家・編集者の松岡正剛氏は、これを「モーラ（網
羅）の神が降りてくる」などと表現していた、と覚えて
います。前述の諸検査について今更数ページの項を立て
たとしても、モーラに取り憑かれた立項にすぎないよう
に感じました。雑誌は教科書ではないのであるからモー
ラする必要はなく、本当に読みたいものに絞ってはどう
か、と思いつきました。そこで、今回はよく知られてい
て何度も触れられている諸検査は外し、新しく登場した
検査、以前からあるけれど皮膚科医にとっては馴染みが
薄い検査、あるいは実施法や解釈にどうにも慣れない
（個人的に）苦手な検査 30 項目を選ぶことにしました。
なかには、本特集ではじめて耳目に触れた、というもの
もあるかもしれません。

本特集では編者の Question に答える Q & A 形式で、
各項目のエキスパートの先生方にご解説いただきました。
他の診療科でも行っている検査については、それぞ
れの診療科の立場から皮膚科医とは違った視点で解説し
ていただくことにより、皮膚科医にとっても新たな気づ
きが生まれるのではないかと期待し、他科の先生方に執

筆をお願いしました。

カテゴリは「アレルギー」「感染症」「腫瘍」「その他」
に分けましたが、これは編者の思考の癖のようなもので
す。病理学総論に倣うと、疾患は「炎症」「腫瘍」「循環
障害」「奇形」「進行性病変」「退行性病変」に六分され
ます。私は「炎症」を「アレルギー」と「感染症」に二分し
ますが、「感染症」ではない「炎症」はすべて「アレルギー」
にしているのです。「この疾患がアレルギー？」と思われ
る向きもあるかもしれません。しかし、「（広義の）アレ
ルギーとは免疫反応に基づく生体に対する全身的局所的
障害である」という定義¹⁾に依拠すれば、広汎な疾患群
がアレルギーの範疇に含まれると考えています。なお、
「アレルギー」「感染症」「腫瘍」の 3 カテゴリで皮膚疾
患の 8～9 割はカバーされてしまうため、残りはカテ
ゴリによらず「その他」に入れています。

さて、とはいえ、モーラから完全に自由になるのは難
しいとみえ、省いた検査項目が気になってきます。幸い
編者として紙幅を与えられましたので、そこで各論で扱
わなかったいくつかの項目について触れ、モーラ神に奉
仕しようと思います（総論に続く）。

文献

- 1) 秋山一男, 宮本昭正: 臨床アレルギー学 アレルギー専門医・
認定医研修のために改訂第 2 版 (牧野荘平ほか編), 南江堂,
東京, p.92, 1998